

<2022.2.22. 経産省との面談レジュメ>

★香害被害者の声：担当は、営業する店舗での移香に苦勞する香害被害者。曝露しながら、店舗備品に付着するマイクロカプセルの清掃に、時間と労力を無駄に奪われていることを伝える。

★マイクロカプセルが付着することでの移香の害、マイクロカプセル画像。ナノプラスチックの問題についての追加資料の説明をする。

★要望3と4について、詳しく回答を貰ったお礼。経産省としては、「厚労省などで、香害の分析・メカニズムが明らかになれば、規制について対処できるようになるかを感じている。」とのこと。

★要望1と2について、回答しなかったのは、「経産省よりも厚労省・環境省に聞いてもらった方がいいと判断したから」とのこと。

★マイクロカプセルが、健康被害だけでなく、種々の製品等の汚損を招き、経済界全体や国民生活に悪影響をもたらしている実態について紹介し、一業界の経済活動を温存することでの、他の業界や自然環境に与えるデメリットを指摘し、経産省に問題提起した。

★「健康被害は厚生労働省マター。海外の規制の例などがあれば動きやすいかもしれない。経産省としては、業界に指導やお願いはできても、法律がないと規制はできない。」というスタンスを繰り返す。業界とコミュニケーションは取っていくとのこと。

・こちらの「海外では規制まではないが意識が高い。より安全な製品を選ぼうという指導を行政がしている」という話には「業界と対話していきたい」とのこと。

・製品の安全性を経産省のN I T Eで調べられないかという問いには、「現時点では、N I T Eでは扱えない。有害であることが法律で明確になれば動ける。N I T Eは法律に基づく規制のエビデンスを集める機関なので。」とのこと。「被害について業界と対話することは重要。規制はハードルが高い。厚労省と連携したい。まず香害被害をどう少なくできるかどうかを考える。」

・「マイクロカプセルだけでもやめるように業界と対話してほしい。自主規制を促してほしい。」と伝える。